

司式:大谷昌恵
奏楽:山田絵里

前奏:「キリストは死の縄目につき給い」(H. シャイデマン)

招詞:これは主の御業、わたしたちの目には驚くべきこと。今日こそ主の御業の日。今日を喜び祝い、喜び躍ろう。(詩 118:23-24)

讃美歌:204「よるこびの日よ」

交読詩編 139:1-12 【指揮者によって、ダビデの詩。賛歌。】

- 01 主よ、あなたはわたしを究め/わたしを知っておられる。
- 02 座るのも立つのも知り/遠くからわたしの計らいを悟っておられる。
- 03 歩くのも伏すのも見分け/わたしの道にことごとく通じておられる。
- 04 わたしの舌がまだひと言も語らぬさきに/主よ、あなたはすべてを知っておられる。
- 05 前から後ろからもわたしを囲み/御手をわたしの上に置いてください。
- 06 その驚くべき知識はわたしを超え/あまりにも高く到達できない。
- 07 どこに行けば/あなたの雲から離れることができよう。どこに逃れば、御顔を避けることができよう。
- 08 天に登ろうとも、あなたはそこにいまし/陰府に身を横たえようとも/見よ、あなたはそこにいます。
- 09 曙の翼を駆って海のかなたに行き着こうとも
- 10 あなたはそこにもいまし/御手をもってわたしを導き/右の御手をもってわたしをとらえてくださる。
- 11 わたしは言う。「闇の中でも主はわたしを見ておられる。夜も光がわたしを照らし出す。」
- 12 闇もあなたに比べれば闇とは言えない。夜も星も共に光を放ち/闇も、光も、変わるところがない。

朗読聖書①イザヤ書 25:6-9

- 06 万軍の主はこの山で祝宴を開き/すべての民に良い肉と古い酒を供される。それは脂肪に富む良い肉とえり抜き酒。
- 07 主はこの山で/すべての民の顔を包んでいた布と/すべての国を覆っていた布を滅ぼし
- 08 死を永久に滅ぼしてくださる。主なる神は、すべての顔から涙をぬぐい/御自分の民の恥を/地上からぬぐい去ってくださる。これは主が語られたことである。
- 09 その日には、人は言う。見よ、この方こそわたしたちの神。わたしたちは待ち望んでいた。この方がわたしたちを救ってください。この方こそわたしたちが待ち望んでいた主。その救いを祝って喜び躍ろう。

朗読聖書②マタイによる福音書 28:1-10

◆復活する

- 01 さて、安息日が終わって、週の初めの日の明け方に、マグダラのマリアともう一人のマリアが、墓を見に行った。
- 02 すると、大きな地震が起こった。主の天使が天から降って近寄り、石をわきへ転がし、その上に座ったのである。
- 03 その姿は稲妻のように輝き、衣は雪のように白かった。
- 04 番兵たちは、恐ろしさのあまり震え上がり、死人ようになった。
28:5 天使は婦人たちに言った。「恐れることはない。十字架につけられたイエスを捜しているのだろうか、
06 あの方は、ここにはおられない。かねて言われていたとおり、復活なさったのだ。さあ、遺体の置いてあった場所を見なさい。
07 それから、急いで行って弟子たちにこう告げなさい。『あの方は死者の中から復活された。そして、あなたがたより先にガリラヤに行かれる。そこでお目にかかれる。』確かに、あなた

がたに伝えました。」

- 08 婦人たちは、恐れながらも大いに喜び、急いで墓を立ち去り、弟子たちに知らせるために走って行った。
- 09 すると、イエスが行く手に立っていて、「おはよう」と言われたので、婦人たちは近寄り、イエスの足を抱き、その前にひれ伏した。
- 10 イエスは言われた。「恐れることはない。行って、わたしの兄弟たちにガリラヤへ行くように言いなさい。そこでわたしに会うことになる。」

祈祷

ご復活の主イエス・キリストの父なる神様、聖名を崇め賛美致します。新たな命の芽生える春のこの時、今日も新しい命を私達に与えてくださいましたこと、ありがとうございます。そして、主のご復活を喜び賛美の礼拝に集い、また配信を通して与ることのできる喜びに心から感謝致します。

私たちの罪の為に十字架に付けられ、墓に葬られた主イエスですが、何者も主をそこに留め置くことはできませんでした。イエス様は死に打ち勝ち復活を遂げられました。主の十字架によって私たちの罪を贖い、ご復活によって永遠の命を私達にお与えくださったことに感謝致します。ご復活の喜びの中で、今、御前に集い、賛美と祈りをお献げし、イースターの礼拝を守ることができることは、私達にとって大いなる喜びです。心からの賛美と祈りをお献げし、み言葉によって励まされて、心からの感謝を献げつつ、この礼拝に与る一人ひとりとさせてください。

しかしながら、ここに集うことを篤く願いながらも、様々な事情によって、この場に来ることも、また、配信によっても与ることのできない友もいることを覚えます。ご高齢の方、心や体に不調を抱える方、それらの人の傍らに付き添う方、主日の今日も、このような働きの中にある方がおられます。どうかそれらの方々の上にも、今ここに集う私達と同じ祝福とお恵みが神様から注がれますようにと祈ります。

今、時を同じくして、全国津々浦々の教会で喜びのご復活の礼拝が献げられています。特に、困難な状況にある教会、災害被災地にある教会、牧者不在の教会、信徒の減少に悩む教会、それらの教会の礼拝を、あなたが顧みてくださり、豊かな祝福に満ちた礼拝となりますようにと祈ります。また、新年度、新たな牧者や信徒を迎えて礼拝をお献げしている教会の上にも、大いなるお恵がありますようにと願います。

今日、世界中の教会でイースターの礼拝がもたれますが、その世界に目を向ければ、争いが続き、涙の中で、この日を迎える多くの人々がいます。あなたが造られたこの世界が一日も早く、平和と幸いに満たされますようにと祈ります。

神様、今日の礼拝で、私達のためにみ言葉の取次ぎをしてくださいます。すばらしい牧師を特に覚えて祈ります。御牧師が聖霊に満たされて、あなたから与えられたみ言葉を大胆に語るができますように。そして聞く私達が心を開いて、しっかりとそのみ言葉を心に留め、この一週間のこの世の旅路を歩む糧とできますように私達を整えてください。

今日ここから始まる一週日、私たちが新たな思いをもって、ご復活の喜びの光の中を歩くことができますように、私達をお導きください。そして次の主日もこの場所へと皆が揃って戻り、御前に集うことができますように私たちの日々の歩みをお守りください。

この感謝と願いの祈り、ご復活の主イエス・キリストの聖名を通してみ

前にお献げを致します。アーメン。

幼児洗礼式(重盛^{かずき}一響)

合唱 Panis angelicus (天使の糧) 聖歌隊

天使のパンは人々の糧となり、天上のパンは形あるものとなった。

なんと驚くべきことだ!

主を糧とするのが、憐れな者、僕、卑しき者たちであるとは。

説教 「復活・喜びの日」

佃 雅之

キリストのご復活を記念するイースターを迎えました。私たち信仰者にとって、キリストのご復活は信仰の中心であります。初代のキリスト者達は、日曜日の朝に、キリストがご復活されたことを記念して礼拝をするようになりました。第一福音書記者マタイがキリストのご復活の出来事を“安息日が終わって週の初めの日に起こった”と伝えている事からも明らかなことです。

イースターは歓びの日でありますけれども、復活という出来事はキリストの十字架と切れ目のないひと続きの出来事です。そのために私たちはイースターの朝を迎えるまで、キリストが歩かれた十字架への道を覚えながら、祈禱会を重ねて迎って参りました。キリストの弟子達は、また墓を見に行ったマグダラのマリアと、もう一人のマリアは、どのような気持ちで日曜日の朝を迎えたのでしょうか。

キリストが十字架に磔にされて無残に殺されたのは、つい^{おととい}一昨日、金曜日のことです。福音を共に宣べ伝えてきた十二弟子の中に、キリストと一緒に十字架に磔にされた者は一人もいません。十字架の下にも誰もいません。銀貨30枚と引き換えにキリストを裏切り、祭司長達に引き渡したイスカリオテのユダは自ら命を絶ちました。他の弟子たちはどうしていたでしょう。キリストが十字架に付けられたことで混乱し、取り乱し、怯えて、ただひたすら、危険が自分に及ばないように、或る家に集まり、戸を開めて、鍵も閉めて、息を潜めて身を隠していたのです。この時、弟子達の心を支配していたのは、言い様のない、これまでに味わったことのない罪責感です。彼らがキリストを最後に見たのは、逮捕されるキリストを見捨てて逃げた時です。その瞬間から、弟子たちは裏切り者、卑怯者、臆病者の集団となってしまいました。彼らはキリストを救い主と信じて、これまでの生活を捨ててキリストに従ってきた人たちです。しかも数日前、キリストが、ろばに乗ってエルサレムに入城された時には、弟子たちの胸は高鳴っていたでしょう。ついに主が王となって、目覚しい働きをなさって、神の国を見える形で打ち立ててくださることを期待していたことと思います。しかし、僅か数日の内に事態は一変してしまいました。

キリストが捕らえられたのが、木曜日の深夜です。翌朝には十字架に付けられてしまいます。一週間前には歓喜して、ナツメヤシの枝を持って出迎えたエルサレムの民衆も手のひらを返し、“キリスト十字架につける”と叫びました。弟子たちは逃げ出すか、引き籠るか、それ以外の選択肢は見当たらなかったようです。

しかし、キリストに従ってきたのは十二弟子達だけではありませんでした。多くの女性達もいました。その中の二人のマリアが墓を見に行ったのです。せめて香油だけでも塗って差し上げたい、遺体を包んでいる布を取り替えてあげたい、何かできることはないかと、居ても立ってもいられず、

墓に向かったのだと思います。墓には大きな石が置いてあって、番兵が見張っています。墓を塞ぐ石はとても大きく重いものです。一説には、男性が20人がかりでやっと動かせるものだと言われています。墓石は、彼女たちの力ではどうしても動かすことができないものです。「すると、大きな地震が起こった」と書かれています。神がみ力を振るわれたと言うことです。そしてその時、そこで彼女達が見たのはキリストの遺体ではなく、主の天使でした。天使が婦人たちに語ります。

7節、「急いで行って弟子たちにこう告げなさい。『あなた方は死者の中から復活された。そして、あなたがたより先にガリラヤに行かれる。そこでお目にかかれる。』」天使は二人のマリアに、“キリストが死者の中から復活されたこと、急いで行って弟子たちに告げよ”と言いました。そして、最後に、「確かにあなた方に伝えました。」と念を押します。「確かにあなた方に伝えました」は原文を見ますと、“さあ見よ。わたしは言った”<オフェステイドウ・エイボン(ὄψεσθε· ἰδοὺ εἶπον)>[あなた方は見ることができる。ほら/見よ。わたしは言った]>と書かれています。

今日の箇所は、二人のマリアが「墓を見に行った」という言葉から始まりました。「すると、大きな地震が起こった」ともあります。この言葉も原文では「見よ、大きな地震が起こった<イドウ・セイモス・エゲネ・メガス(ἰδοὺ σεισμός ἐγένετο μέγας)>[ほら/見よ。地震が、起った。大きな]>と書かれています。キリストの遺体を探している二人のマリアに、“遺体の置いてあった場所を見よ!”と天使も語るので。さらに言えば、今日共に交読しました詩編139篇にも8節に「見よ、あなたはそこにいます」とあります。旧約聖書から読まれたイザヤ書の25:9にも「見よ、この方こそわたしたちの神」と書かれています。聖書は神のみ業が示される時に「見よ!<ヒネー(הִנֵּה)間投詞[見よ]>」と書くのです。神のみ業を見るために、私たちは今日もここに集められています。私たち一人ひとりが、復活のキリストの目撃者、復活の証人となるためです。

天使のメッセージを聞いた二人は、“恐れながらも大いに喜び、急いで墓を立ち去り、弟子達に知らせるために走って行った”とあります。天使の言葉に促されて、婦人たちは走り出します。墓を見に行くまでは、自分の無力さを嘆き、ピラトの無責任な判決に憤り、ローマ兵たちの残虐ぶりを恨み、イスラエルの民衆たちの都合のいい心移りに怒り、弟子たちの臆病さに失望していた婦人たちが、今は喜びに満たされて、すでに走り出しています。嘆いている者を立ち上げさせ、走り出す者へと変える、悲しむ者から喜ぶものへ、疑うものから信じる者へ、これが福音の力、復活の力です。

み言葉を伝えるために走り出した者達に与えられる出来事は、キリストとの再会です。「すると<イドウ(ἰδοὺ)>[原文は]見よ!>ヘブライ語間投詞[ヒネー(הִנֵּה)の加人訳としてよ<使われる>]、イエスが行く手に立っていて、「おはよう」と言われた(9節)、ここにも「見よ」と言う言葉が使われています。原文は、「見よ、イエスが彼女達に出会った<イドウ・イエソウス・ヒューバーン・テン・アウタイス(ἰδοὺ Ἰησοῦς ὑπήντησεν αὐταῖς)>[ほら/見よ!。イエス会った彼女ら]>」と書かれています。そしてキリストは二人のマリアに「おはよう」と挨拶をしました。

「おはよう」と訳されているギリシャ語は「カイレテ(Χαίρετε!)」<動>カイル(χαίρω)<喜ぶ挨拶用語<命法>⇒“ごきげんよう、幸いあれ!”>、カイレテは「喜びなさい」という意味の言葉です。“おはよう”と言われたのは、二人のマリアの「恐れ」を取り去るための言葉であったでしょう。しかし、それだけではありません。キリストが、“喜びなさい”と言われたのは、弟子達の裏切りや、“十字架にかける”と叫んだエルサレムの民衆への失望も、屈辱も、十字架上での痛みも苦しみも、すべて受け入れて、全て終わった。父なる神の約束は成就さ

れた。キリストがかねて言われていた通り、“人の子は三日目に復活することになっている(マタ17:22,23他)”という、このみ言葉が確かに実現したからです。

復活の出来事を初めに見たのは、二人のマリアです。最初に名の記されているマグダラのマリアは七つの悪霊に取り憑かれた人だという伝承が残されています。悪霊に取り憑かれ、罪を犯していたマグダラのマリアは、キリストと出会い、癒された人だと言われています。マリアは罪深い過去を持っていて、大変暗い過去を背負っていた、問題の多い生活を生きた人であった。そのマリアが復活のキリストを一番初めに見たということは、罪人が一番初めに復活の主を見ることができたということでもあります。

キリストの復活を見て信じたのは、正しい人でも、学者や権力者でもなく、罪人であった。別の言い方をすれば、自分が罪人であることが分かっている者が、キリストから“喜びなさい”と言われて、まことの喜びの知らせを直接受けることができるということです。

キリストが“喜びなさい”と言われるのは、キリストご自身が私たちの重荷を担い、私たちの罪を担って、十字架に付いて死んでくださった。しかも、死んでくださっただけでなく、死に打ち勝って甦ってくださった。そのために、私たちはもはや罪も死も恐れることのない神の恵みの内に、しっかりと守られた喜びに満ちた生活をしていくことができるということでもあります。

キリストの墓の見張りをしていた番兵達は、この世の権力の下で守られていながら、「恐ろしさのあまり震え上がり、死人ようになって」しまいました。その反対に、キリストの十字架の死に絶望して一切の希望を失っていた者が、今は喜びに溢れて走り出しているのです。復活は、キリストを信じる者達へ、人生の転換、逆転の恵みがあることを伝えています。

日々、一人ひとり、大変な暮らしの中にあつて、それでも復活のキリストと出会うために教会に集う私たちに、キリストは“おはよう”、“喜びなさい”と声をかけてくださいます。婦人達はイエスの足に抱きつき、「ひれ伏しました。“キリストを礼拝した””ということです。

9節に「イエスが行く手に立っていて、」と書かれています。“復活のキリストは、いつでも私たちの先回りしておられる”ということです。私たちが不安や混乱の中に留まっている時も、うつむいている時にも、“行く手には主が立って”おられます。そして“恐れることはない”と言って下さるのです。

「恐れるな」、この言葉には、思いもよらない意味が含まれています。元の言葉(Μετὰ τὴν Πάσχα(Μὴ φοβέσθε))は「二つ、二人組」という意味を持っています。それはつまり、“キリストがいつもあなたと一緒に居る”という約束です。キリストが“あなたの孤独にはしない”、“キリストが共にいてくださるのですから、恐れることは無い”のであります。

人生の歩みの中では、誰にでもあらゆるものと切り離されてしまうのではないかと恐ろしさを感じることもあると思います。この時、墓に向かった二人のマリアがそうであったかもしれません。あるいはキリストを裏切って見捨てて逃げ出した弟子達も、孤独感を感じていたことでしょう。大切な人が、愛する人が死んでしまったなら、自分の生きている世界はモノトーンで色彩を失ったように思います。色だけでなく、音も失われて、聞こえてはいるけれども全く届かない、生活がシーンとしている。今、ここにも、孤独を味わっている方が居るかもしれません。しかし、あなたは一人ではないのです。キリストと出会った者は、決して孤独にはなりま

せん。“恐れることはない”と。“インマヌエル神はわれらと共におられる(マタ1:23)”と言ってくださる主が、今も生きておられます。もしも、自分が孤独だと思っているのであれば、それは、あなたが自己中心的な思いに囚われて、キリストを見ていない、あなたがキリストを一人にしているということです。キリストを信じ、キリストと共に生きるなら、私たちが孤独になることはありません。死から甦られたキリストが私たちの内に住んでくださっています。復活されたキリストは、今、私達と共におられます。私たちが信仰によって、自分の体の中にキリストを見ることが出来るはずで

キリストは今日の箇所最後に、「兄弟たちにガリラヤへ行くように言いなさい。そこでわたしに会うことになる。」と言われています。自分を見捨てて逃げ出した弟子たちを、“弟子”とは言わず、“兄弟達”と呼ぶのです。罪の赦しの言葉です。さらに、キリストはガリラヤでの再会を約束しています。ガリラヤは、弟子達と出会い、一緒に伝道を開始された所です。“あなた達と共に過ごした日々を無駄にはしない。わたしとあなたたちが一緒に過ごした日々は、決して無意味なものではない。もう罪から解放されていいんだ。もう苦しまなくてもいいよ”と語ってくださっているのです。

あなたの造り主はあなたを愛し、あなたの罪を赦して、あなたと共に生きてくださって、あなたが思いもしなかった喜びと平安に与らせてくださるお方であります。私たちの主は、今日も先回りをして、私たちの行く手に立って、“行きなさい”と言われています。この礼拝堂から、今、あなたがいる所から、“行け!”と、“急いで行け!”と、そして“福音を語れ”と、“わたしが復活したことを兄弟達に伝えよ”と言っておられます。

復活のキリストが“恐れることはない。わたしが共にいる。大いに喜んで走り出せ。”と言われているのですから、私たちは、主の言葉を信じて、復活の証人として、喜びの知らせを愛する人たちに伝えるために、共に走り出しましょう。

お祈り致します。

聖なる神、あなたの計り知れない愛と恵みによって、復活のキリストが私たちの生涯の日々の行く手に立ってくださることを知りました。そして、復活のキリストが、今日も“喜びなさい、恐れることはない”と語りかけてくださいます。心から感謝致します。

この喜びの知らせを、私達の生きる土台とすることが出来ますように、私達に復活の証人として走り出す力を与えてください。私たちの生涯を聖霊が導き、御言葉が支えてください。主の聖名よって祈ります。アーメン。

讃美歌:326「地よ、声たかく」

献金・感謝(長原 光)・主の祈り(讃美歌21 93-5A)

天地の造り主にして、全能の父なる主イエス・キリストの御神様。復活の主日の礼拝を、ライブ配信の方々、またこの場に居る兄弟姉妹と共にあなたに献げることができまして感謝致します。

過ぐる日には、あなたが御子イエス・キリストを十字架に付け、私達に本当の絶望と、本当の死と、そして暗闇の中の暗闇を見させてくださいました。その後あなたは御子を墓に葬り、陰府に降し、本当に私達を希望の無い者と、その実感を与えてくださいました。しかし、あなたはあなたの義を示すために、イエス・キリストを墓より、陰府より復活させ、今や墓は、復活のしるしとなりました。私達は今、あなたの御子イエス・キリストの十字架と復活が、私たちの罪と死を滅ぼすために、あなたが授け

て下さったあなたの大きいなる義であることをここに示されました。私たち、どうか、欠けの多い土の器でありますけれども、主の復活の証人としてあなたが示してくださいました永遠に続く道を歩ましてください。この道を歩む者は希望を持ち、あなたの復活へと、あなたの御国にへと至るまで私たちが健やかに過ごすことができる道です。どうか私たちのこの地上歩みを、あなたが共にいて導いてください。

今朝は重盛一響さんに幼児洗礼を授けてくださって感謝致します。将来、あなたに信仰告白し、あなたが養育してくださいませ。どうかお守りください。

あなたは私達に大きいなる恵みを施してくださいています。その中から一部を私たちの献身のしるしとしてあなたにお返し致します。どうかあなたの教会の業のためにお使ってください。

あなたが教えてくださった「主の祈り」をもって、復活の新しい一回りの歩みを為さしめてくださいますように。「主の祈り」…アーメン。

派遣：讚美歌91「神の恵みゆたかに受けて」

祝福：主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが、あなたがた一同と共にあるように。アーメン。

報告：(1)受洗者紹介、(2)会堂修繕計画日程の紹介、(3)教会創立 100 周年記念事業「教会学校記念誌」配布の案内

後奏：「主イエス・キリストよ、われら汝に感謝す」(D. ブクステフーデ)